小學科用

日本文典

春山弟彦著

巻之二下

巻之二下目錄

動詞一右
動詞種類一左　變畫十六左
助動詞二十六左　法三十二右
時三十三右　集合動詞三十八左
他詞ヨリ轉スル動詞三十九左
副詞四十右
本來ノ詞ヲ直チニ用ル者四十左
後置詞接續詞ヲカテ用ル者仝
詞尾ノ變畫ヲモツ者四十一右
他詞ヨリ轉シ來ル者四十二左
集合シテナル者四十三左　品類四十四左
後置詞四十六右
第一種四十六左　第二種四十九右　第三種五十右
接續詞五十右
感詞五十六右

ホ 2
4671
2

門 ホ 2
號 4671
卷 2

東京帝國大學圖書之印
醍醐藏書
利 454 2
ホ利2 4733 4

小學科用日本文典卷之二下

姫路　春山弟彦　著

明治三年八月十九日ヨリ買入
安順珍賞

動詞

問　動詞とは

答　事物に就きて百般の狀態動作を言ひあらはす時に用ゐる貴重の要詞にして每文かならず關係可からざる者あり故にこれを關く時は全き文章をなさざるを以て意義を通曉なる能はず今動詞を說くに種類變畫法時の數部に分つ又助動詞ありて其活用をのべ其他集合動詞あり

他詞より轉じ来りて動詞となる者なり

問　動詞の種類とは

答　他動受動自動の三種とを又其形を變ぜずして自他両般に通ずる動詞なりことを通動と名づく

問　他動詞とは

答　文主の業作を他の物品に及達する作用をならはせる者にして一个の物品を缺く時は意義を解し難き詞なりことを本来の者と助動詞と結合して自動詞より轉じ来る者と活用を變じて自動詞より轉じ来る者との三種あり

問　第一種の者は

答　本来のなりたちを以て他動の作用をならはせる者なり　教師が生徒を教ふ　學生が書をよむと言へる文に於て　を　ふ　教　む　讀　等の詞なり

問　第二種の者は

答　もとは自己の動作をのみならはせることを得て其動力の他の物品に及達せること能はざる詞が助動詞と結合して其助力をもて他動の業作をならはせる者なりことき甲乙丙丁戊の五法なり

問　甲法の者は

答　スといつる助動詞と結合をる者をりこもはサ行四段活用の助動詞として其自動詞と結合をるはア列の音ウ列の音オ列の音をり受く他動表の甲をみよ

他動表甲

	四段活用詞	中二段活用詞	下二段活用詞	
	自動詞	自動詞	自動詞	
ア列の音をり受くる者	うごく動	くつ 朽	ふく 深	
	ちる 散	こる 懲	かる 枯	
	かふ 通	ほころぶ 綻	いゆ 癒	
	助動詞と結合の者	助動詞と結合の者	助動詞と結合の者	
	うごかせ	くつがせ	ふかせ	
	ちらせ	こらせ	からせ	
	かよはせ	ほころばせ	いやせ	

ウ列の音をり受くる者	けげむ 勵	つく 盡	ふむ 浴	ふる 古	おく 起	おつ 落	おふ 生	おる 降下
	けげませ	つくせ	ふむせ	ふるせ	おこせ	おちせ	おほせ	おろせ
	さむ 衰退							
	さませ							
オ列の音をり受くる者	あそぶ 及	とどむ 鳴動						
	あそばせ	とどませ						

この表の空局を存をる者はこゝに填を可き詞をいまゝ檢出をざるべし

問　乙法の者は

答　甲法の者と活ス用を異にせりことはサ行下二段活用の助動詞にして其ちりこをはサ行四段活用の動詞のア列の自動詞と結合せる者なり他動表の乙をみを音より受くるを

他動表乙

カ行四段活の詞をり受る者	自動詞	助動詞と結合の者
	ゆく 往	ゆかを
	さく 咲	さかを
サ行四段活の詞をり受る者		
タ行四段活の詞をり受る者	自動詞	助動詞と結合の者
	かつ 勝	かゐを
	ゐつ 立	ゐゝを
ハ行四段活の詞をり受る者		
マ行四段活の詞をり受る者	自動詞	助動詞と結合の者
	をむ 進	をゝかを
	をむ 住	をかを
ラ行四段活の詞をり受る者		

自動詞	助動詞と結合の者	
ふを 伏	ふさを	
祓ざを 根刺	祓ざを	
自動詞	助動詞と結合の者	
らふ 合	らはを	
為ごかふ 戰	為ごかはを	
自動詞	助動詞と結合の者	
はしる 走	はしらを	
ゆみろる 恭	ゆみらを	

問　丙法の者は

答　サスといへる助動詞と結合せる者なりことはサ行下二段活用の者前問のスといへる助動詞にしてサの字を加へる者にしてサ行下二段活用の詞にして自動詞の後に加へて他動をらはを者をこを二法に分つ

問　其一は

答　中二段活用の自動詞の詞尾をイ列の音に取を

サスの助動詞を加ふる者をり他動表の丙をみよ

問　其二は

答　下二段活用の自動詞の詞尾をエ列の音に取りサスの助動詞を加ふる者をり他動表の丙をみよ

他動表丙

		中二段活用の自動詞本来の形	助動詞と結合して他動詞となるところの形
ア行より轉ぜる者		おく　起	おきさせ
カ行より轉ぜる者	う　得	うく　受	うけさせ
サ行より轉ぜる者			
タ行より轉ぜる者	はづ　恥	はぢさせ	たつ　建	たてさせ
ナ行より轉ぜる者		つかぬ　束	つかねさせ
ハ行より轉ぜる者	ほころふ　綻	ほころびさせ	ならぶ　並	ならべさせ
マ行より轉ぜる者	ゆむ　浴	ゆみさせ	きよむ　清	きよめさせ
ヤ行より轉ぜる者	くも　悔	くいさせ		
ラ行より轉ぜる者	おる　下	おろさせ		
ワ行より轉ぜる者			うゑ　植	うゑさせ

問　丁法の者は

答　セサスといふる助動詞を結合をる者をりこと

はスヒスルスレとサ行下二段に活用する助動詞とサスサセサスサスルサスレとサ行下二段に活用する助動詞を重ねとる集合の助動詞なり其本詞と結合する者は四段活用の自動詞の詞尾をア列の音に取りセサスの助動詞を加ふる者なり他動表の下をみる

他動表丁

四段活用の自動詞本来の形	結合して他動となりとる形	
きく 聞	きかせさせ	
いふ 合	いはせさせ	
しる 知	しらせさせ	
はしる 馳	はしらせさせ	
とる 取	とらせさせ	

四段活用の自動詞本来の形	結合して他動となりとる形	
すむ 澄	すませさせ	
まほふ 匂	まほはせさせ	
くふ 喰	くはせさせ	

問 戊法の者は

答 シムといへる助動詞と結合する者なりこれはシメシムシムルシムレとマ行下二段に活用する助動詞にして其自動詞と結合するは四段活用の動詞のア列の音をり受くるなり他動表の戊をみる

他動表戊

カ行活用の詞	自動詞	助動詞と結合の者
ゆく 往	ゆかしむ	
ハ行活用の詞	自動詞	助動詞と結合の者
いふ 合	いはしむ	

サ行活用の詞	ふす　伏	ふさしむ
タ行活用の詞	ねざす　根ザス	ねざさしむ
ラ行活用の詞	かつ　勝	かさしむ
ワ行活用の詞	あつ　立	あらしむ
マ行活用の詞	すく　進	すくしむ
ハ行活用の詞	ゐる　住	ゐやしむ
ラ行活用の詞	はしる　走	はしらしむ
サ行活用の詞	すある　恭	すあらしむ

問　活用を變じて自動詞より轉ド來る者は

答　四段活用の自動詞を同行の下二段活用に變ド

て他動をならはせ者をり他動表の已をみを

他動表已

四段活用の自動詞本来の形	同行下二段活用に轉ぜる者	
カ行活用の者	きぐ　退	きぐる。
	やはらぐ　和	やはらぐる。
サ行活用の者	ふす　伏	ふする。
タ行活用の者	ぐつ　育	ぐつる。
ワ行活用の者	あつ　立	あつる。
四段活用の自動詞本来の形	同行下二段活用に轉ぜる者	
ハ行活用の者	がふ　違	がふる。
	とのふ　調	とのふる。
マ行活用の者	すくむ　進	すくむる。
	ちぐさむ　慰	ちぐさむる。
ラ行活用の者	いる　入	いる。

問　受動詞とは

答　文主がかへりて他の人物の作動を受くる時其作

用の状態をかちはを詞ニして動詞がルラルサ
ルセラルサセラル等の助動詞と結合してをる
者をり

問　ルの助動詞と結合をる者は

答　四段活用の動詞ニして詞尾をア列の音ニ取り
此のルレル、ルレとラ行下二段ニ活用をる助
動詞を加へて受動をかちはを者をり受動表の
甲をみよ

受動表甲

	本来の形	結合の形
カ行四段活の	まねく 招	まねかる
ハ行四段活の	やしなふ 養	やしなはる
動詞と結合をる者	はぶく 省	はぶかる
	なざむく 欺	なざむかる
サ行四段活の動詞と結合をる者	めさ召	めさる
	ころさ殺	ころさる
	もどさ戻	もどさる
タ行四段活の動詞と結合をる者	ゐルつ 保	ゐルさる
	はなつ 放	はなさる
	うつ 撃	うつる
動詞と結合をる者	さそふ 誘	さそはる
	くふ 食	くはる
マ行四段活の動詞と結合をる者	うつくしむ 愛	うつくしまる
	祝ゐむ 祝	祝ゐまる
	うらやむ 羨	うらやまる

問　ラルの助動詞と結合をる者は

答　中二段活用の動詞ニは詞尾をイ列の音ニ取

り下二段活用の動詞または詞尾をエ列の音に取りて此のラ[illegible]ルラレラル、ラルレとラ[illegible]行下二段に活用をる助動詞を加へて受動をらはせ者をり受動表のエをみよ

受動表エ

中二段活用の詞イ列の音をり受くる者	本来の形	結合の形	
ア行をり轉ぜる者			
カ行をり轉ぜる者			
サ行をり轉ぜる者			
タ行をり轉ぜる者	とづ 閉	とぢらる	
ナ行をり轉ぜる者	よづ 攀	よぢらる	
ハ行をり轉ぜる者	ふ 強	ひらる	
	こふ 戀	こひらる	
下二段活用の詞エ列の音をり受くる者	本来の形	結合の形	
ア行をり轉ぜる者	う 得	えらる	
カ行をり轉ぜる者	あたく 助	あたけらる	
サ行をり轉ぜる者	うく 受	うけらる	
	のせ 載	のせらる	
	ふせ 伏	ふせらる	
タ行をり轉ぜる者	たつ 中	たてらる	
ナ行をり轉ぜる者	へだつ 隔	へだてらる	
	かさね 重	かさねらる	
ハ行をり轉ぜる者	あづね 尋	あづねらる	
	そふ 添	そへらる	
	かぞふ 算	かぞへらる	

ア行より轉ぜる者	うらむ 恨	うらみらる	うつむ 集	うつめらる	
			うづむ 埋	うづめらる	
ヤ行より轉ぜる者	むくゆ 報	むくいらる			
			うゑ 植	うちらる	
ワ行より轉ぜる者					

問　サルの助動詞と結合せる者は

答　此詞は元来サシスセ為とサ行四段と活用せる助動詞とルレルレル得とラ行下二段と活用せる助動詞とを置き移ある集合の助動詞なり

其本詞と結合をなせは各種の活用に従ひて受くる音を異にし甲乙丙の三法とせ

問　甲法は

答　四段活用の動詞と結合せる者をエこもは詞尾をア列の音に耳エサルの助動詞を加へて受動をらはせ者なり受動表の丙をみよ

問　乙法は

答　中二段活用の動詞と結合せる者をりこもは詞尾をオ列の音に耳エサルの助動詞を加へて受動をらはせ者なり受動表の丙をみよ

問　丙法は

答 下二段活用の動詞と結合する者をまこれは詞尾をア列の音に轉じてサルの助動詞を加へ受動をいらはた者なり受動表の丙をみよ

受動表 丙

	四段活用の詞ア列の音をとり受くる者		中二段活用の詞オ列の音をとり受くる者		下二段活用の詞ア列の音をとり受くる者	
	本来の形	結合の形	本来の形	結合の形	本来の形	結合の形
カ行より轉ずる者	うごく 動	うごかさる	すぐ 過	すごさる	まく 負	まかさる
	おどろく 驚	おどろかさる	おく 起	おこさる	にぐ 逃	にがさる
タ行より轉ずる者	もつ 持	もたさる	おつ 落	おとさる	いづ 出	いださる
	まつ 待	またさる	おづ 怖	おどさる		
ハ行より轉ずる者	かよふ 通	かよはさる	ほろぶ 亡	ほろぼさる	のぶ 延	のばさる
	まぎらふ 紛	まぎらはさる				
ヤ行より轉ずる者					はゆ 生	はやさる
					たゆ 絶	たやさる

問 セラルの助動詞と結合する者は

答 これは元來ス、セ、スル、スレ為とサ行下二段に活用する助動詞とラル、ラレ、ラル、ラルレ得とラ行下二段に活用する助動詞とを疊ねたる集合

の助動詞をして四段活用の動詞の詞尾をア列の音と耳至てセラルの助動詞を加へ受動をならはせる者をり受動表の丁をみと

問　サセラルの助動詞と結合せる者は

答　こゝは元來サシスセ為とサ行四段と活用せる助動詞とスセスル為とサ行下二段と活用せる助動詞とラレラルいラルレとラ行下二段と活用せる助動詞と三詞を畳孫多る集合の助動詞をり其本詞と結合をせは各種の活用と従ひて甲乙の二法と分つ

問　甲法は

答　中二段活用の動詞の詞尾をイ列の音と耳至てサセラルの助動詞を加へ受動をならはせ者をり受動表の丁をみと

問　乙法は

答　下二段活用の動詞の詞尾をエ列の音と耳至てセラルの助動詞を加へて受動をならはせ者をり受動表の丁をみと

受動表丁

四段活用の詞ア列の音をり受くる者	中二段活用の詞イ列の音をり受くる者	下二段活用の詞エ列の音をり受くる者	
本来の形	結合の形	本来の形	結合の形

ア行より轉ぜる者									
カ行より轉ぜる者	かく 書	かせらる	おく 起	おきさせらる	うく 受	うけさせらる	う 得	えさせらる	
サ行より轉ぜる者	きく 聞	きかせらる	つく 盡	つきさせらる	つぐ 擧	つげさせらる			
	おろす 降下	おろさせらる			のす 載	のせさせらる			
タ行より轉ぜる者	かす 貸	かさせらる			はす 馳	はせさせらる			
	かつ 勝	かちさせらる	おつ 落	おちさせらる	ちつ 捨	ちてさせらる			
ナ行より轉ぜる者	みつ 滿	みたさせらる	くつ 朽	くちさせらる	へだつ 隔	へだてさせらる			
					かぬ 兼	かねさせらる			
					かさぬ 重	かさねさせらる			

ハ行より轉ぜる者	うたふ 謠	うたはせらる	きたふ 強	きたひさせらる	きたらぶ 調	きたらべさせらる			
	ひろふ 合	ひろはせらる	こぶ 媚	こびさせらる	かふ 替	かへさせらる			
マ行より轉ぜる者	くむ 汲	くみさせらる	うらむ 恨	うらみさせらる	うらむ 改	うらめさせらる			
	うむ 生	うませらる			ちむ 嘗	ちめさせらる			
ヤ行より轉ぜる者			おゆ 老	おいさせらる	おぼゆ 覺	おぼえさせらる			
					こゆ 越	こえさせらる			
ラ行より轉ぜる者	うる 賣	うらせらる	おる 織	おらせらる	おる 降下	おりさせらる			
					わたる 応	わたさせらる			
ワ行より轉ぜる者					きたる 萎	きたさせらる			
					うゑ 植	うゑさせらる			
					すゑ 居	すゑさせらる			

問　自動詞とは

答　文主の自から作動をなして其動力の他の事物に及達せず自己の身上にのみ行らはるゝ百般の状態業作をなし示めす詞をりこれに本来の者と助動詞と結合して他動詞より轉じ来る者との三種なり

問　第一種の者は

答　本来のをりあちのみにて自動の作用を行らはす者にしてつちかふ培うをつく巻等に於てはその業作を行らはしかあるる固やはらく和等に於ては其性質を行らはしたてる立をまる居等に於ては其状態を行らはせる者をり

問　第二種の者は

答　他動詞がル得四段活用の者行るひはル得下二段活用の者いへる助動詞と結合して自動を行らはす者をり

問　ル四段活用の者の助動詞と結合する者は

答　どもはラリルレとラ行四段に活用する助動詞にして其他動詞と結合して自動を行らはす者

問　甲乙の二法行り

問　甲法の者は

答　四段活用の他動詞の詞尾をア列の音より耳アルの助動詞を加ふる者なり去かもともこの詞は甚だ稀なりてカ行の活用なるのみなるなり

たをはちふさぐ塞をふさがるなる作りはぶく省をはぶかるなる作るが如きこと是なり

問　乙法の者は

答　下二段活用の他動詞の詞尾をア列の音より轉ドルの助動詞を加ふる者なり自動表の甲をみ

自動表甲

下二段活用の他動詞本来の形	助動詞と結合して自動詞となりたる形	カ行より轉ぜる者	タ行より轉ぜる者	ナ行より轉ぜる者
たをく	たをかる	助	懸	重
かく	かくる		中	拾
			つる	かさぬ
			たをる	かさなる
				つらぬ
				つらなる

下二段活用の他動詞本来の形	助動詞と結合して自動詞となりたる形	ハ行より轉ぜる者	マ行より轉ぜる者	ワ行より轉ぜる者
くはふ	くはへる	加	換	居
かふ	かはる		集	治
			つむ	をさむ
			つまる	をさまる
				をわる

問　下二段活用の助動詞と結合して自動詞となりたる者とは

答　ときはルレルレ、ルレとラ行下二段に活用せる助動詞にして四段活用の他動詞の詞尾をオ列の音に轉ずるルの助動詞を加へて自動をいらはせる者をりさせて之は最稀なる者にしてむすぶ結をむすぼるといへるが如きこと也なり

問　活用を變じて他動詞より轉じ來る者は

答　四段活用の他動詞を同行の下二段活用に變じて自動をいらはせる者をり自動表のしをみと自動表し

四段活用の他動詞	同行下二段活用に轉ずる者
カ行 くぐく　碎	くぐくる。
活用 とく　解	とくる。
の者 やく　燒	やくる。
ラ行 きる　截	きる。
活用 やぶる　破	やぶる。
の者 わる　割	わる。

問　通動の者は

答　本来の形を變ぜずして自他両般に通じて用る者をりいるる〻歩よろこ〻喜わらふ笑ふく吹等の詞に於て人がいるく小児がよろこぶ

君がわらふ　風がふくなどいふ時は自動なり
といへども　人が道をゐるく　小兒が花をを
ろこぶ　君が彼をわらふ　風が衣をふくなど
いへば他動のなかるなり

問　動詞の變畫とは

答　四段活用中二段活用下二段活用の者ゐりや為
この活用に適合なざる者ゐりとを不規則の
者とも

問　四段活用の動詞とは

答　動詞の詞尾をアイウエの四列の音に變畫なる
者にしてことをカ行の活用サ行の活用タ行の

活用ハ行の活用マ行の活用ラ行の活用の六種
ゐり

問　カ行四段の活用は

答　詞尾をカキクケの四音に變畫して活用なる動
詞なり變畫圖の甲の第一欄内第一行をみな

問　サ行四段の活用は

答　詞尾をサシスセの四音に變畫して活用なる動
詞なり變畫圖の甲の第一欄内第二行をみよ

問　タ行四段の活用は

答　詞尾をタチツテの四音に變畫して活用なる動
詞なり變畫圖の甲の第一欄内第三行をみよ

問　ハ行四段の活用は

答　詞尾をハヒフヘの四音に變畫して活用をる動詞をり變畫圖の甲の第一欄内第四行をみよ

問　マ行四段の活用は

答　詞尾をマミムメの四音に變畫して活用をる動詞をり變畫圖の甲の第一欄内第五行をみよ

問　ラ行四段の活用は

答　詞尾をラリルレの四音に變畫して活用をる動詞をり變畫圖の甲の第一欄内第六行をみよ

問　中二段活用の動詞とは

答　動詞の詞尾をイウの二列の音に變畫をる者にてこれをカ行の活用タ行の活用ハ行の活用マ行の活用ヤ行の活用ラ行の活用の六種あり

問　カ行中二段の活用は

答　詞尾をキクの二音に變畫して活用をる動詞をり變畫圖の甲の第二欄内第一行をみよ

問　タ行中二段の活用は

答　詞尾をチツの二音に變畫して活用をる動詞をり變畫圖の甲の第二欄内第二行をみよ

問　ハ行中二段の活用は

答　詞尾をヒフの二音に變畫して活用をる動詞をり變畫圖の甲の第二欄内第三行をみよ

問　マ行中二段の活用は

答　詞尾をミムの二音に變畫して活用をる動詞をり變畫圖の甲の第二欄内第四行をみよ

問　ヤ行中二段の活用は

答　詞尾をイユの二音に變畫して活用をる動詞をり變畫圖の甲の第二欄内第五行をみよ

問　ラ行中二段の活用は

答　詞尾をリルの二音に變畫して活用をる動詞をり變畫圖の甲の第二欄内第六行をみよ

問　下二段活用の動詞とは

答　動詞の詞尾をウエの二列の音に變畫して活用をる者にてこれにア行の活用カ行の活用サ行の活用タ行の活用ナ行の活用ハ行の活用マ行の活用ヤ行の活用ラ行の活用ワ行の活用の十種あり

問　ア行下二段の活用は

答　詞尾をウエの二音に變畫して活用をる動詞をり變畫圖の甲の第三欄内第一行をみよ

問　カ行下二段の活用は

答　詞尾をクケの二音に變畫して活用をる動詞をり變畫圖の甲の第三欄内第二行をみよ

問　サ行下二段の活用は

答　詞尾をスセの二音に變畫して活用をなす動詞
をり變畫圖の甲の第三欄内第三行をみよ

問　タ行下二段の活用は

答　詞尾をツテの二音に變畫して活用をなす動詞
をり變畫圖の甲の第三欄第四行をみよ

問　ナ行下二段の活用は

答　詞尾をヌネの二音に變畫して活用をなす動詞
をり變畫圖の甲の第三欄内第五行をみよ

問　ハ行下二段の活用は

答　詞尾をフヘの二音に變畫して活用をなす動詞
をり變畫圖の甲の第三欄内第六行をみよ

問　マ行下二段の活用は

答　詞尾をムメの二音に變畫して活用をなす動詞
をり變畫圖の甲の第三欄内第七行をみよ

問　ヤ行下二段の活用は

答　詞尾をユエの二音に變畫して活用をなす動詞
をり變畫圖の甲の第三欄内第八行をみよ

問　ラ行下二段の活用は

答　詞尾をルレの二音に變畫して活用をなす動詞
をり變畫圖の甲の第三欄内第九行をみよ

問　ワ行下二段の活用は

答　詞尾をウエの二音に變畫して活用をなす動詞

をう變畫圖の甲の第三欄内第十行をみよ

變畫圖甲

第一轉	本然の作動	四段活用		中
第二轉	未然の作動			
第三轉	既然の作動			
第四轉	名詞の前又来る者			
第五轉	動詞の前又来る者			

(米)四段活用の第二轉又は第五轉にて別に動詞を加へざるときは其詞をさらを

ゐく	飽	おく	起
ゐか		おき	
ゐけ		おくま	
ゐく		おくる	
ゐき		おき	
たた	押	つる	釣
おさ		つら	
おせ		つを	
おを		つる	
おし		つり	
うつ	擊	ふく	逢
うと		ゐは	
うて		ゐへ	
うつ		ゐふ	
うち		ゐひ	
ゐふ	逢	すむ	住
ゐは		すま	
ゐへ		すめ	
ゐふ		すむ	
ゐひ		すみ	

二段活用		たつ	落
		たち	
		こふ	戀
		こひ	
		うらむ	恨
		うらみ	
		おゆ	老
		おい	
		こる	懲
		こり	
		おつる	
		おち	
		こふる	
		こひ	
		うらむる	
		うらみ	
		おゆる	
		おい	
		こりる	
		こり	
下二段		う	得
		え	
		うく	受
		うけ	
		やせ	痩
		やせ	
		をつ	捨
		をて	
		かぬ	兼
		かね	
		ゐる	與
		ゐへ	
		うる	
		うへ	
		うくる	
		うけ	
		やせる	
		やせ	
		をつる	
		をて	
		かぬる	
		かね	
		ゐる	
		ゐへ	

活用				
ほむ　誉 きゆ　消 かる　枯 うゑ　飢	ほめ きえ かを うを	ほむま きゆま かるま うゑま	ほむる きゆる かるゝ うゑる	ほめ きえ かま うを
	を で ど ぬ ば ん め す まん	ば ど ぬ	る を は ぬ が ず ちん かま すで より から ちり	し て ぬ つ ゝ ゐり けを けん ちば ちん ろ
各轉 とり　受く る助　動詞 副詞　後置詞 接續詞	と も ま いり らん らし べし ばかり かし すど			

問　活用の不規則なる動詞は

答　三段に活用をする者二個變畫を受けざる者十四个共に十六詞は上に示めせる所の規則に適せざる三段に活用をする者は

問　キクコ来と活用をする動詞とシスセ為と活用をする動詞との二詞より變畫圖の乙をみよ

答

問　變畫を受ざる動詞は

答　き着る似る煑ひ乾ひ煮み見い射い鑄け蹴へ綜ゐ居ゐ率ひきゐ帥もちゐ用等の十四詞は變畫を受けざ唯ヲ行下二段にルレと活用をする助動詞と結合して其活用をならはせる者なり變畫圖

のこをみよ

變畫圖乙

第一轉	第二轉	第三轉	第四轉	第五轉	
本然の作動	未然の作動	既然の作動	名詞の前に来る者	動詞の前に来る者	
く（三段に活用する者）	こ	くま	くる	き	
た（て）	せ	たま	たる	し	
き	き	きま	きる	き	
る	る	るま	る	る	
る	る	るま	る	る	
ひ	ひ	ひま	ひる	ひ	變

畫

ひ	ひま	ひる	ひ		歟
み	みま	みる	み		を
い	いま	いる	い		見る
い	いま	いる	い		射る
い	いま	いる	い		鑄る
ろ	ろま	ろる	ろ		居る
ろ	ろま	ろる	ろ		率る
ひきろ	ひきろま	ひきろる	ひきろ		帥る者
もちろ	もちろま	もちろる	もちろ		用る
け	けま	ける	け		蹴る
へ	へま	へる	へ		綜る

各轉より受くる助動詞副詞後置詞接續詞等は甲圖に同じ

問　變畫圖の第一轉本然の作動といへるは

答　この活用に於ては現に動作をる所の形況をら
はしかつ詞も截まをわ至て本語の體裁とゝ
のほりあ〻る者をまばこまを動詞の本然の詞と
いひまと截斷の詞といふを至

問　第二轉未然の作動といへるは

答　ンメ等の助動詞を加へて其作動の初めまして
いまゞ事の行をはまざる前に〻らかゞめ今よ
り後まさに斯く行をはる可しとかゝるひは今
よりまさに其事を斯くの如くとり行ふ可しと
こ其作動のきざしをいひ初むる時に用ゐ又ゝ

の事物のゆくさきをゝちかゞめ推量して後つ
ひに斯の如くをる可しといひ定むる時に用ゐる
をり其他ズヌジザル等の副詞に結合して否不
のうちけしを示めを時もまと詞尾をこゝとを
ゝ

問　第三轉は

答　バドドモの接續詞に結合して一事の作動既に
畢至其作動に因りて後事を生ぜる時に前事既
に過ぎて後事の現に來る可きを示さむとをる
其前後の中間にこの接續詞を置きて前句より
後句へ接續して前事の作動既に畢りとるを示

ゆを者を至るとへば　花さけバ人も訪ひきぬ
秋来ぬ　ども風いまだ涼しからぬ等の如し

問　第四轉は

答　動詞が名詞の前ニ来至て其後ニ在る所の名詞の作用を行らはさむとする時ニこの活用の詞とり名詞へつゞくるをりあるとへば　野ニさく花　書を學ぶ人等の如し

問　第五轉は

答　動詞が動詞の前ニ来るといへるは動詞が二个かさなりとる時ニ上の動詞をこの活用ニ取りて下の動詞へつゞくるをり　もちゐつくを用尽

ゆきかよふ　行通ふ　うけとる　受取等の如しまた名詞ニ轉して用る時もこの活用よりをるをり　よろこひ　悦を申を　たい　老を養ふ　うらみ　恨を棄つる等の如し

問　活用の中ニ往々ルレの字を加ふる者ありは何ぞ

答　四段活用のほかは悉皆其動詞の固有の活用ニ於て十分をらぬして足らざる所ありを以てラ行下二段ニ活用をるルレの助動詞を加へて其變畫を補ふ者ニして實は其活用をラ行ニ轉ぶる者と知る可し

問　四段活用の動詞はラ行ゑ轉ぜざるや

答　ラリルレ有ゑラ行四段ゑ活用をる助動詞を加へて工列の音をり悉くラ行ゑ轉して再さび四段ゑ活用をる者と知る可し

變畫圖　丙

	第一轉甲	第一轉乙	第二轉	第三轉	第四轉	第五轉
四段活用の別	ゐり 有	ゐる	ゐら	ゐま	ゐる	ゐり
動詞を加へざれば其詞をさらに段ゑ活	をり 居	をる	をら (米)	をま	をる	をり
再び四段ゑ活	ふけり 吹	ふける	ふけら	ふけま	ふける	ふけり
	させり 指	させる	させら	させま	させる	させり
	もてり 持	もてる	もてら (米)	もてま	もてる	もてり

(米)第二轉ハ助動詞を加へざれば其詞をさらに

	第一轉甲	第一轉乙	第二轉	第三轉	第四轉	第五轉
用をる者	おもへり 思	おもへる	おもへら	おもへま	おもへる	おもへり
	をめり 住	をめる	をめら	をめま	をめる	をめり
	つまり 鈎	つまる	つまら	つまま	つまる	つまり
各轉ゑり受く	とも	なり	なで	ば	を	き
	かし	らん	ざ	ど	は	て
		らし	ぬ		が	ぬ
		べし	ば		ず	つ
		ばかり	ん		ん	ゐり
		まじ	め		かな	けり
			さし		やで	けん
			なん		より	ばな
					から	ん
					なり	の
る助動						
詞副詞						
後置詞						
接續詞						

第一轉の乙は助動詞を加へて其詞きとをわり本語の體裁をなせり甲と參考して分別を可し

問　文那語の動詞を用ゐる時はいかなる活用をなせ
答　シスセ為とサ行の三段に活用せる助動詞を加
||||へて其活用を助をく變畫は助動詞の變畫に隨
ふ　記せ　勉強せ　記せん　勉強せん　記せ
||||る　勉強せる　記し　勉強し等の如し變畫圖
||||の乙と參考せ可し
問　助動詞とは
答　動詞の變畫に於て諸種の活用を悉く分ちて明
らかにさし示めさんとせるに其詞尾の變畫を
なせことわづかに二三四の間に出さるを以て
數般の活用に應ぜる能はず其缺を補はんが為
め活用を助くる一種の動詞ありこれを助動詞
とせ其類二ありり
問　其一は
答　獨立して意義をなせ者なるはちり有
||||う得せ為の三詞なり變畫圖の甲乙丙をみて詳
||||に其活用を知る可し偖この三詞は動詞の根元
にして凡百の作動に渉るを以て孰もの動詞も
この意を含せざる者なし
問　其二は
答　獨立して意義をなせ能はずかならず他の動詞
に結合して作動の活用をなせる者なり其類

大畧六にわかつアリ有の類に属する者ウ得の類に属する者ス為の類に屬する者現在時限を示める者未來を示める者過去を示す者等なり

問 アリ有の類に屬する者とは

答 ラリルレとラ行四段に活用する者にして至せり なり たり けり めり等なり助動表の甲を見よ

問 ウ得の類に屬する者とは

答 ルレとラ行下二段に活用する者にしてたつる立ツル うくる受クル等の動詞に加はり至たる所のル得といへる助動詞なり又らる被さる被 せらる被為 させらる被為等の受動を示せる助動詞もこの類に屬すべし助動表の乙を見よ

問 ス為の類に屬する者とは

答 サシスセとサ行四段に活用する者とスセとサ行下二段に活用する者との二般にわかつさて四段に活用する者はうごかす動カス おこす起コス からす枯ラス等の動詞に加はり至たる所のス為といへる助動詞なり下二段に活用する者はうたす撃タス あはす合ハス等の動詞に加はり至たる所のス為といへる助動詞なり又

さて今せさて今等の助動詞もこの類に屬して可〻助動表のごとみよ

助動表甲

	第一轉甲	第一轉乙	第二轉	第三轉	第四轉	第五轉
ラ行四段活用の助動詞	ら せり なり あり けり めり	る せる なる ある ける める	ら せら なら ある けら めら	き せき なき あき けき めき	る せる なる ある ける める	り せり なり あり けり めり

行ケリ 立テリ

各轉より受くる諸種の詞は變畫圖の丙と同〻

助動表乙

	第一轉	第二轉	第三轉	第四轉	第五轉
ラ行下二段活用の助動詞	○ る らる る せる させる	○ き らき き せき させき	き る らる る せる させる	る る〻 らる〻 る〻 せる〻 させる〻	○ き らき き せき させき
サ行四段活用の助動詞	さて さ せ なり				

立ツレ 受クレ　立ツル 受クル　行カル 押サル　閉ラル 捨ラル　動カル 落トサル　書カセラル　植エサヒラル　動カス 起コス 枯ラス

サ行下二段活用の助動詞						
た	せ	たき	たる	せ		
さた（撃タス 合ハス）	させ	さたき（恥ナサス 清メサス）	さたる	させ		
せさた（開カセサス 走ラセサス）	させ	せさたき	せさたる	させ		

各轉より受くる諸種の詞は變畫圖の甲と同じく参考して知るべし

問　現在時限を示す者とは

答　現今目前なるかはゝ所の作動を示す者なるして其詞二个あり

問　第一の者は

答　ツテツルツレと行下二段なる活用なる者なるてたなはち　きゝつ聞キツ　いひつ言ヒツ等の動詞に加はゝる所のツといへる助動詞なり

きゝつる事　いひつる人　春は来つ　鶯なき

つ等の文に於て現今の景況をみる可し其變畫は助動表の丙をみて知る

問　第二の者は

答　ナニヌネとナ行四段なる活用なる者とニヌと同行中二段に活用なる者とにてなはちなりぬ成リヌ　ちるぬ散リヌ　きぬ咲キヌ等の如く動詞に結合なる所のヌといへる助動詞なり事なりぬ　散りぬる紅葉　きぬる花等の文に於て即今其動作は畢り為ども其事物

のいまだ過き去らざる目前に現存せる者の景況を述ふる時に用ふる詞なり其變畫は助動表の丙をみる

問　過去を示す者とは

答　ケキシシガと活用して過去を示す不規則なる一種の助動詞なりなほ　みき見キ　き・き聞キキ　みけん見ケン　きゝけん聞キケン　見し人聞し事　みしが見シガ　きゝしが聞キシガ等の如し助動表の丙をみよ

問　未来を示す者とは

答　自他の別なくいまだ説話をなす時なりは後を期して行なはんとする事の作動をまづならかしめいひならはさんとする時に用ふる者にして其詞に二般あり

問　第一の者は

答　むはるひいンメとマ行下二段に活用する助動詞にしてなほ　みむ見ムゆかん行カン　みめ見メゆかめ行カメ等の如く動詞に結合して未来の作動を示す者なり偖こゝは此後かなら是の事を斯の如く行はんとならかじめ決定していひ出ずる時に用ふる詞なり助動表の丙をみよ

問　第二の者は

答　ラムゐるひいランラメとマ行下二段に活用せる者にして　ゆくらむ　行クラム　きくらん　聞クラン　ゆくらめ　行クラメ　きくらめ　聞クラメ　等の如く動詞と結合して未来を示めす助動詞なり

偖この詞は未来の一層へだゝりて疑はしく其事の作動を即今決定してはいひ難しといへども終に斯の如くなりゆくべしとか恥ぢ行ふべしとか推しはかりて未来の作動をいひらはせる時に用ゐる詞なり助動表の丙をみよ

助動表丙

	第一轉	第二轉	第三轉	第四轉	第五轉
現在助動詞	つ（言ヒテン 聞キテム）	て（言ヒテン 聞キテム）	つる	て（言ヒテン 聞キテド）	
	ぬ（成リヌ 散リヌ）	な（成リヌ 散リヌ）	ぬ（成リヌ）	ぬる	ぬ
	㊀（成リヌ 散リヌ）	①	㊁	ぬる	①
過去助動詞	き（見キ 聞キ）	け	しか	し	○
未来助動詞	むん（聞カム 行カン）	○	め	むん	○
	らむん（聞クラン 行クラン）	○	らめ	らむん	○

問　動詞の法とは

答　動詞の文章につらはるゝに全く同一の詞と雖

い精密ゝこまを分てば作動ゝ各異の景況あり其景況ゝまあがひて逐一ゝ確定しあり詞の體裁ありこまを動詞の法といふあり顯示法あり疑示法あり命令法あり

問　顯示法とは

答　動詞を以て示しあり動作狀態等を各種の時限ゝ從ひて直ゝ說て其事情をあらはゝ示を者をり其時限の現在なる者ゝは　花さく　鳥なく　といひ過去の者をあらはしては　花きゝ　鳥なきゝといひ未來の動作ゝは　花きかむ　鳥なかんといふが如き者ゝを顯示法なり配合

例圖をみを

問　疑示法とは

答　事情の動作をあらはなゝはゝ其命意の切實ならぬしてあらはゝ示しがあき時ゝ疑ひを含みて言をなゝ用る者なり諸この法は動詞ゝカヤ等の副詞を加へて作る可しなはち　花はきのふさきしか過去今日さくか現在あをさかんか未來いつなりや　現在知る可からぬ等の如し配

合例圖をみを

問　命令法とは

答　人獸事物を論ぜをべて已ゝ對なる者ゝ命令

をなを用ゐる法なりまと希求勸勵諫止等を示せりさて其命令希求勸勵諫止等をなを可き者はかならず眼前に存在なりとみるが故に時限は常に現在にあり　君行け　汝かへと　雲は　月出でと等の如く其詞甲乙丙丁の四法となり

問　甲法は

答　四段活用の動詞の詞尾をエ列の音に耳ヲて直ちに命令詞となを者なり　花さけ　春来と　友訪へ　酒を飲め等の如く

問　乙法は

答　中二段活用の動詞の詞尾をイ列の音に耳りて命令詞となを者なり然ともこの詞は本来のまゝにては命令の意をならはをことといさゝか缺くる所あるを以て中古よりかをらずをよといへる召呼の感詞を加へて其意を充ゑむる者なり　起きと　懲りと等の如く

問　丙法は

答　下二段活用の動詞の詞尾をエ列の音に耳ヲて乙法の如くヨといへる召呼の感詞を加へて命令詞となを者なり　譽めよ　棄てと等の如く

問　丁法は

答　く来を為の動詞は第二轉のコ来セ為ヨの字を加へ變畫を受けざる動詞は直ちヨ本詞ヨの字を加へて命令詞とする者ちりこよ

問　せと　見と　着よ　蹴よ等の如し

答　動詞の時とは人ヨ對して說話をなし文ヨ臨みて事を記する

は共ヨ眼前ヨ在てなすはち現在の動作なりといへども其述ぶる所の事ヨ至りてはあるひは既往の動作を記するありあるひは未来の動作をかゝるあるいはゝ今其時限を分ちて第一現在第二現在半過去過去第一未来第二未来とする

の五時限を動詞の時といふなり配合例圖をみを

問　第一現在とは

答　現今目下ヨ於て動作をする所の作用を示す者をりをすはち　吾が問ふ　汝が答ふ　花がさく　實がなる　蟲なきつ　風ふきつ　今来つる　人　鶯のなきつる聲等の如し

問　第二現在とは

答　動作既ヨ畢ヨて其事といのひ現今存在して其用をなす者をいらはを時ヨ用るなり去かきどもこをは動作僅ヨ畢りる後ヨ屬するを以て

まと半過去と名つく　花さきぬ　年さちぬ
書を讀みはじめぬる時　この人の来ぬる時
等の如く現在を示す助動詞の第二（三十葉右）と参考を可し

問　過去とは

答　動作をやく既往の事に屬し物かはり時うつりて目今現存せざる後よりのかみの景況をいふ

るゝていらはさんとする時に用る者なり

てキシと轉用する助動詞を加へて其過ぎ去りし徴候を示す者なり　彼人は去年英國へゆきありき　吾はこの春東京へ参りき　雪ふりし時　月おもしろかりし夜等の如く過去を示す助動詞（三十葉左）と参考を可し

問　第一未来とは

答　動詞さムメと轉用する助動詞を加へて今より後に為さんとする動作をいらかじめいひらはす者なり　學校にゆかむ　算術をなさばん　等の如く未来を示せる助動詞の第一（三十一葉右）と参考を可し

問　第二未来は

答　こゝに未来の一きはへだゝりて其作動の景況を確定しがたくこゝろもとちき時にいさゝか

疑ひを含みていひ出づる時に用ゐる者にして動詞の第一轉にラム（ラン）ラメと轉用せる助動詞を加ふる者をりをちち　吾はいつ故郷へ帰らるらん　彼人はいま東京に至るらむ等の如し未来を示せる助動詞の第二（三十一葉左）と参考せべし

配合例圖

第	四段活用詞	をむ 住	をむか をむや をみつるか をみつるや
		顯示法	疑示法
		詞の截斷せる者	名詞に連續せる者
		をむ家	をみつる家

一	中二段活用詞	おく 起	おくる人	おくるか おくるや おきつるか おきつるや
現		おきつ	おきつる人	
在	下二段活用詞	ほむ 譽	ほむる人	ほむるか ほむるや ほめつるか ほめつるや
		ほめつ	ほめつる人	
第	四段活用詞	をみぬ	をみぬる家	をみぬるか をみぬるや
二	中二段活用詞	おきぬ	おきぬる人	おきぬるか おきぬるや
現	下二段活用詞	ほめぬ	ほめぬる人	ほめぬるか ほめぬるや
在				

過去	四段活用詞	ちてみき	ちてみ〜家
	中二段活用詞	おきゝ	おきし人
	下二段活用詞	ほめき	ほめし人
第一未来	四段活用詞	ちてすむ　ちてん	ちてすむ家
	中二段活用詞	ちてめ	おきむ入
	中二段活用詞	おきむ　おきん	
		おきめ	

		ちてみしか	
		ちてみしや	
		おきしか	
		おきしや	
		ほめしか	
		ほめしや	
		ちてすむか	
		ちてすむや	
		ちてめや	
		おきむか	
		おきむや	
		おきめや	

来	下二段活用詞	ほめむ	ほめむ入
		ほめゝ	
第二未来	四段活用詞	ちてむ　ちてん	ちてむ家
		ちてめ	
	中二段活用詞	おくらむ　おくらん	おくらむ入
		おくらめ	
来	下二段活用詞	ほむらむ　ほむらん	ほむらむ入
		ほむらめ	

		ほめむか	
		ほめむや	
		ほめゝや	
		ちてむか	
		ちてむや	
		ちてめや	
		おくらむか	
		おくらむや	
		おくらめや	
		ほむらむか	
		ほむらむや	
		ほむらめや	

第二未来はカヤ等の副詞を加へ疑示法として直ちに

問　集合動詞とは

答　二个以上の詞の結合して一个の動詞の如くなる者なり然して其最下の位なる詞はかならず動詞にかゝるなり大畧分ちて三種となす

問　其一は

答　動詞の互に結合してなる者なりなはち

かへるみる顧る つ　沸騰もえる つ　燃立ッかき

る筆記　もたらす持餘　もちる用　等の如

し

問　其二は

答　名詞と結合してなる者なり　いろみる試

うたづく點頭　とざす鎖　くもる つ　雲立ッ　等の如

し

問　其三は

答　タタチウチトリサシヒキアヒ等の字を動詞の前に置きて作動の意を強むる者なりなびく靡　なびける走　なびきわける別　うちすつる棄　とりみだす亂　さしおく置　ひきゐる率　ひたる成　等の如し

問　他の詞より轉じ來る動詞は

答　名詞より來る者　形容詞より來る者　副詞より來る者なり

問　名詞より轉じ來る者は

答　おとなぶる大人ブルをさなぶる幼兒ブルなどの

ふ擔ナフつみなふ罰ナフやどる宿ル等なり

問　形容詞より轉じ來る者は

答　にからむ赤らむきばむ黃バムるかぶる高ブル

まぎはふ賑ハフらなる荒スつよむる强ムルよ

わむる弱ムル等なり

問　副詞より轉じ來る者は

答　いなめく今メクうべなふ宜ナフいなむ否ムかる然ル等なり

副詞

問　副詞とは

答　動詞のにらはしるる作動にるひは形容詞のにらはしるる形狀性質を猶精しく示めす者なり

て常に動詞まとは形容詞の側らに副とる詞なり

りなはち　つまびらかに書をよむは甚ざよき學生なり　明日共に學事を談ぜん君かならだ

来き等の如くきてこの詞に本來の詞を直ちに用る者にり後置詞にるひは接續詞を加へて用る者にり詞尾の變畫をもつ者にり他の詞より轉じ來る者にり集合してなる者にりまと各異

の意義よりてこの詞を數種にわかつ

問　本来の詞を直ちに用ゐる者は

答　かならず必はなはだ甚多く唯の五而已にとどまる顔もし若又は皆もはら專ら蓋主はらく暫時やゝ漸いまだ未いまゝ今のち後等の如し

問　後置詞にてひは接續詞を加へて用ゐる者とは

答　後置詞を加ふる者はならず新にまでに既にはかに頻につひに遂にひるがに竊にもしくは若クハかならずしくは同クハまたばらくも須臾モいやしくり苟モにまづ何ゾいかにまづ如何ゾいづくにまづ焉ゾ等にりさて接續詞を加ふる者

は　かつて嘗テ　いへて敢テ　きはめて極メテ　かつて豫テ　はじめて初テ　もとより固ヨリ　こまよりて焉ヨリ等にり

問　詞尾の變畫をもつ者とは

答　一は形容詞の詞尾と同じき者一は否不のうちけしを示す者にして各甲乙の二種に分つ

問　第一類の甲種は

答　クシキケレと轉ずる者にりはやし早シいやしやし容易シ等の如し副詞變畫圖第一をみよ

問　第一類の乙種は

答　シシク シキ シケレ と轉用せる者なり　おなじ
同シ　むなし　空シ　ひさし　久シ　よろし　宜シ　等の如
く副詞變畫圖の第一をみよ

副詞變畫圖第一

	第一轉	第二轉	第三轉	第四轉
	動詞形容詞の前より来る者	名詞動詞形容詞の後より来りて截斷せる者	コソの後置詞を受けそれを結びて截斷せる者	名詞の前より来りて直に名詞に結合せる者
甲種	く　無ク　如ク	き	けき	き
乙種	き　同ジク　久シク	き	きけき	きき

問　第二類の甲種は
答　ズメネと轉用くてうちけしを示せる者なり
久ず見ズ　きかず聞カズ等の如し副詞變畫圖の
第二をみよ
問　第二類の乙種は
答　ラ行四段に轉用せるザルといへるうちけしの
副詞なり　久ざる見ザル　きかざる聞カザル等
の如し副詞變畫圖の第二をみよ

副詞變畫圖第二

第一轉	第二轉	第三轉	第四轉	第五轉

	甲種	乙種
本然の詞々て截断せる者	なで 見ズ 聞カズ	ざる 見ザル 聞ザル
本然の詞	なで	ざら 見サラン 聞カサラン
既然の詞コリの後置詞を受けて截断せる者	以	ざと
名詞の前又来る者	ぬ	ざる
動詞の前又来る者	だ	ざり

問　他の詞より轉じ来る者は

答　名詞形容詞代名詞動詞等より轉じ来りて副詞となる者なり

問　名詞より来る者は

答　ひび又日々ニ　とき〴〵又時々ニ　くちづから口ヅカラ　てづから手ヅカラ　ことゞく盡々等なり

問　形容詞より来る者は

答　おほい又大イニ　おほよる凡よる　ほく舗ク　ひとへ又偏ニ　わづか又僅ニ　はるゝ遥々等なり

問　代名詞より来る者は

答　ゐもこゝ抑　こもこゝ交等又して抑は其モ其モの集合して名なり多る者又て物をつよくさし示して抑揚の義をふくみ交は是モ是モの詞の集合して名なり多る者又て許多の物を呼びたつめ

てこゝをさし示す義をふくみある副詞なり

問　動詞より来る者は

答　はじめ初ひげて勝テかへりて却テあちやち忽いありて至テやゝ益ますは願クハ等なり

問　集合して一つる者とは

答　二个以上の詞の結合して副詞となる者なりこゝ副詞の互に集合したると他の詞と結合したるとの二種あり

問　副詞の互に集合したる者は

答　ほとゝ殆やゝ儘ひあはず能ハズ若かだ

如カズ　ちんぢかくのごとくはなはだしきや何ゾ斯ノ如ク甚シキヤ等なり

問　他の詞と結合したる者は

答　其時に於て　ひらざるを得んや　何の幸かこゝに若かん等なり

問　意義によりて類を分つとは

答　位地時刻反復順序分量状態決定否不種分併合推量疑問解説の十三種なり

問　位地副詞は

答　こゝに茲ニかしこに彼所ニよろに他所ニやへに前ニ右りへに後方ニをちこちに各所ニほか

ヨリ外ニ等セリ

問　時刻副詞ハ

答　さき前のち後いヤ今きのふ昨日けふ今日ハ古明日ことし今年いつか何時カときヨ時ニかつて曾テ古でヨ既ニ古みやかヨ速ニ多ちヤちヨ忽ニひさしく久シク古ばらく暫時ひヨ日ニとヨ年ニつきヨ月ニ等セリ

問　反復副詞ハ

答　いくたびも幾回モふたゝび再度多びごとヨ度ゴトニ多びゝど度々古ばしゞど屢々ときどき時々セりゝ折々古き星ヨ連ニ等セリ

問　順序副詞ハ

答　はじめ始ヲはり終ヤづ先ツつぎヨ次ニ等セリ

問　分量副詞ハ

答　おほく多クセくちく少クわづかヨ僅ニいさゝか少量ヤタく全くおほいヨ大イニセこゝル少シモセこぶる頗ル等セリ

問　状態副詞ハ

答　つよげヨ強ゲニよわげヨ弱ゲニをさをげヨ幼ゲニおもげヨ重ゲニかろげヨ軽ゲニ等セリ

問　決定副詞ハ

答　かならず必きはめて極メテうべヤさヨ正ニ

さゐめて定メテ等なり

問　否不副詞は

答　なき無なく無クなきかまたカレいな否なを不ざる不

等なり

問　種分副詞は

答　あゞ唯のみ而已ことゝ殊ニばかり　わぎり

て限リテ　わきて別キテ　ことなり異ナリ等なり

問　併合副詞は

答　とゝゝ共ニ　ならびゝ并ニ　をべて凡テ　いづれ

何レモ　みな皆　ことごとく悉ク　うけて勝ゲテ　お

なじく同シク等なり

問　推量副詞は

答　けむし蓋　うとむふらくは疑フラクハ　おろらく

は恐ラクハ等なり

問　疑問副詞は

答　かは歟や　やいかゝ如何ニ　いかゝ豈　なんぞ何ゾ　そゞ

くゝゞ焉ゾ等なり

問　解説副詞は

答　ゆゑゝ故ニ　かるがゆゑゝ故ニ　まかまば然レバ

なをはち即等なり

後置詞

問　後置詞とは

答　名詞形容詞代名詞動詞副詞等の後に置きて其本詞と其後に来る所の詞との中間の関節をなりて其系累の態所與奪等をさし示す者なり一ことを指示言と名づけ文の綴屬に於て最緊用なる詞なり譬ば　人は紙に文字をかくといへる文に於てハニヲ等の詞なり其最要用なる者を詞義の軽重に依りかひて三種に分つ

問　第一種の者は

答　系累を示す所の意平易にして後に来る動詞助動詞等をして本然の活用をなさけち第一轉を以て截断をしむる者なり其詞はハモノニヘヲヨリマデ等なり其後に来る動詞の轉化は照應圖の第一行をみよ

問　ハとは

答　一物を衆くの物のうちより取わけて文主と立てゝさし示す所の詞なり　春は暖なり　秋はひやゝかなり　人は来り　我は往く等の如し

問　モとは

答　二物以上の者をならへ擧げて文主としてさし示す所の詞なり　花も紅葉も紅なり　舜も人なり我も人なり等の如し

問　ノとは

答　二の名詞の間に位して其系累を示す時上に位する所の名詞が形容の意をもつことを示す者と物品の持主を示す者との二義なり　石の橋　絹の衣　天神の祠　人麻呂の歌等の如し

問　ニとは

答　位地人物時限等をさし示して文主の資用に供する所の者を與ふる時其系累をならはす者なり　花は庭にさく　蝶は花にいろぶ　人は後に来らむ　吾は人に問はん等の如し

問　ヘとは

答　後来の時限を期して至る可き位地をならかじめさし示していひ出る時に用る詞なり　来月は東京へ行かんし　此所へ彼者を置かむ等の如

問　ヲとは

答　文主の要する物品を資用することかいるひい役使をることかをならはす時に其物品の後に置きて其次に来る動詞の系累を定むるなり　人文主が書物品を讀む動詞　農夫文主が鍬物品を持つ動詞等の如し

問　ヨりとは

答　與へらるゝと奪はるゝとの反對の二義を別ちて用ゐるとも畢竟は主客を論ずるに一所より他の一所に及ぼすことの一義なり　朋より遠方より來る　百里奚は市より買はるる等は與へらるゝ義なり　山上より臨む　江戸より行く等は奪はるゝ義なり

問　マデとは

答　彼所より此所に及び來る義にて物を引受くる意なり　大阪まで來る　東京より京都まで百四十餘里等は其本義なりと轉じて用ゐる者は花をみるまで雪ふりまけり　雨ときくまで木葉ちりけり等なり

問　第二種の者は

答　系累を示す所の意稍重くしてこの詞の後に來る動詞助動詞等をして第一轉のひらひは茅四轉を以て截斷せしむる者にして照應圖の第二行の如し其詞はゾノナンカヤ等なり

問　ゾとは

答　其義ハと同じくして指示の意稍重き者なり　春ぞ來る　氷ぞ解くる　秋風ぞ吹く　雪ぞふりける等の如し

問　ノとは

答　ゾと同じくして指示の意いさゝか軽し茅一種のノと異なり　雁の来なける　春風の吹く等の如し

問　ナンとは

答　其義ゾる近くして口調をゆるめていひ出る時る用る詞なり　雲かとのみなんおぼえける　時るなんいへるをよろこびける等の如し

問　がとは

答　文主を確定して其系累をあしかるさし示す詞なり　君が来ませる　月がのつる　世が治む　る等の如し

問　ヤとは

答　人をよびかくる意いるひは物を問かくる意を以て文主をいらはし出す詞まして疑問る用る副詞召呼る用る感詞のヤと其原は同じ詞の各種る轉じる者なり　人やみる　時雨や来つる等の如し

問　第三種の者は

答　指示なる所の義最重き者まして文主をきびしく取り定めて示す詞ましてなきはなコソといへる後置詞なり　君をこそ待て　身をこそ遠くへなれつも等の如し其後る来る動詞の轉化

は照應圖の第三行の如し

照應圖

		變畫圖の甲乙に屬する動詞及助動表の乙丙に屬する助動詞	變畫圖の丙に屬する動詞及助動表の甲に屬する助動詞	形容詞變畫圖及副詞變畫圖に屬する形容詞副詞
第一行	第一種の後置詞より系る者	第一轉して結ぶ	第一轉の甲にて結ぶ	第二轉して結ぶ
第二行	第二種の後置詞より系る者	第四轉して結ぶ	第四轉のて結ぶ	第四轉して結ぶ
第三行	第三種の後置詞より系る者	第三轉して結ぶ	第三轉して結ぶ	第三轉して結ぶ

接續詞

問　接續詞とは

答　詞句を連續して篇章をなす所の詞にしてなほ

はちトドテデバ等の五なりすべて集合の者にありトモトハドモシカドモニテシテトテニシテトシテシカシテテバナバアラバナラバアレバナレバシカバマシカバ等其數なほ多し

問　トは

答　名詞にあるひは動詞の第一轉をなをいち截斷せる詞を受けて下の詞へ連合せしむる者なり其名詞の下にある者は　石と金とを集む　人と語る等の如し　東京へゆくといふ人にあり　なるはへかへらむとなる時

問　テは

答　動詞の第五轉を受けて上の動作を下文へ及ぼす意を以て接續せしむる詞なり　行きて見む　學びて時々こを習ふ等の如し

問　デは

答　動詞の第二轉を受け否不のうちけしを示して下文へ及ぼして接續せしむる詞なり　行かで止る　知らで過る等の如し

問　バは

答　未來と過去との二種ありて其未來を示す者は動詞の第二轉を受けて下文へ接續をしむる者なり　人來らば事を談ぜん　道ならかたらば身をさらむ等の如しと過去を示す者は動詞の第三轉を受けて下文へ接續せしむる者なり　人來しば其事を談ず　道ならきらかなば身をさやる等の如し

問　トモは

答　動詞の第一轉を受けて未來として反對の義を含みて下文へ接續せしむる詞なり　彼をは才短し學ふとも其業を成しがたからむ　彼をは其心多くして惡さるふとも動かざる可し等の如し

問　ドモは

答　動詞の第三轉を受けて過去ヽして反對の義を含みて下文へ接續せしむる詞ヽしてドヽ異なることなし　彼きは才短し學べども其業なら

ざりき　彼きは其心多バし惡ヽさろへども動

かざりき等の如し

問　シカドモは

答　動詞の第五轉を受けて下文へ接續せしめ反對の意を示をことドモヽ同じくして過去を示をことドモより强し　京都へ行きしかども嵐山へは行かざりき　友を尋ねしおども其人ヽは

はざりき等の如し

問　トハは

答　ある物を入る訊問をるかはるひは説明をる時かヽ其名詞の下ヽ或は動詞の第一轉の截斷をる詞の下ヽ置きて下文をひき起を詞なり　人の道とは何ぞ　善とは正直なり等の如し

問　ニテは

答　人品位地時刻等をさし示を後置詞のニヽテの字を加へて接續せしむる詞なり　東山ヽて花はむ　家を作るは大工ヽて庭を造るは植木屋なり等の如しまた多ニテモといふ詞なりニテと

ほゞ同し　今日にても明日にても来り給へ
筆にても墨にてもめし給へ等の如し

問　トテは

答　名詞にあるひは截断せる動詞を受けて下文へ接續せしむる詞なり　稲荷神社とて貴き神のましましけるとて　故郷へ帰るとて道にて等の如し

問　シテは

答　シスセ為と活用をる助動詞とテの接續詞と集合しある者にて副詞にあるひは後置詞接續詞等を受けて下文へ續くる詞なり　にして　なるして　として　去かして等の如し

問　テバは

答　動詞の第五轉を受けて下文へ接續をる詞にして　てバに同くして其意つよく後日を推量りて議定をる意を含めり　譬へば　見てば　聞てば　といへば　見ば　聞かばといはむより其意つよく聞ゆるなり

問　ナバは

答　動詞の第五轉を受くる詞にして其意テバに同くして稍かろく　見なば　聞なば等の如し前係と参考をべし

問　アラバは

答　名詞を受けて接續する者として將來を推量して其事をなさむとする意をふくめり　書ならば買はむ　刀ならば賣る等の如し

問　ナラバは

答　後置詞のニとアラバとの集合より生ずる者として名詞を受けて接續することアラバに同くして其意いさゝか異なり　人ならば問はむものを　玉ならば行きて拾はむ等の如し

問　アレバは

答　名詞を受け既然を示して下文へ接續する詞なり　物ならば則ち　道ならば其教無かる可からむ等の如し

問　ナレバは

答　名詞を受けて接續する詞として其意アレバに近くしていさゝか異なり　玉ならば拾へ　石ならば拾てよ等の如し

問　シカバは

答　動詞の第五轉を受け過去を示して下文へ接續する詞なり　親友の訪來りしかば愈快く談じ遠路より帰りしかば大いつかれり等の如し

問　シカバは

答　動詞の第二轉を受け過去に於て為し得べき事を為さむ心をのこして過ぎ来つる意を示して下文へ接續する詞なり　驚きかさしかば聞かる可きに事に出さきて聞かざりき　梅か枝を折らさしかば折らる可きに時たぎさり等の如し

さ二段活用の詞に於てはナの字を加へてナマシカバといへり　落ちなさしかば　絶えなさしかば等の如し

感詞

問　感詞とは

答　發情に感ずて覺えず發する所の聲にして詞に意義なく唯悲喜驚歎の情況を強く示す者にして章句の首尾にはらはるゝ詞なり　ああ　いとう　しや　嗚呼喜哉　おろる可きかな　可恐哉等の如し

さる句中に置くことあり　長々し夜を獨かも寢むといへるか如し　偖其發情に從ひて各呼聲を異にし大畧分ちて十一種となす然して諸物の音響鳥獸の鳴聲を摸する詞も亦これに屬せり

問　發一語は

答　歎喜の感詞なり　アナ　ア、　オ、　ヤレ
等の如し

問　第二種は

答　悲哀の感詞にして其發聲歡喜の感詞と同くし
てこれを文字に寫せば異ることなしといへど
も實境の發音に至りては大に其感動を分別す
る所ありて可し

問　第三種は

答　驚歎の感詞　コハ　コレハ　サテ
ハヤ等なり

問　第四種は

答　賤惡の感詞なり　エイ　ヤオレ　ウ、等の如
し

問　第五種は

答　鎮止の感詞なり　マ、　シ、　コレ等の如し

問　第六種は

答　勸勵の感詞なり　イザ　サ、　イカニ等の如
し

問　第七種は

答　希望の感詞なり　モカナ　ナニトソ等の如し

問　第八種は

答　發笑の感詞なり　カ、　ハ、　ホ、等の如し

問　第九種は

答　哭泣の感詞なり　ヨヽ　オヽ　メヽ等の如し

問　第十種は

答　召呼の感詞なり　ヨヤ　ナウ　コレ　モシ

等の如し

問　第十一種は

答　唯諾の感詞なり　ウウベ　ハイ　アイ等の

如し

問　諸物の音響とは

答　カン金聲　ドン革聲　カチ木聲　コチ石聲等の類を

いふなり

問　鳥獸の鳴聲とは

答　イ馬聲　ア鵶聲　カリ雁聲　ネヨ猫聲　ブ蜂聲等の類

をいふなり

小學科用 日本文典卷二下終

明治十年二月十三日版權免許

著者 兵庫縣士族 春山弟彦 大阪府下茅壹大區二小區南新町壹丁目九番地

出版人 大阪府平民 淺井吉兵衛 茅壹大區七小區唐物町四丁目三拾四番地

青木孟之介